

ふるさとの山里の恵みと音楽の感動を全国へ発信

—光ケーブルを活用し、ふるさと総合学習のビデオコンテンツとホームページ作成で情報発信—

愛知県・額田町立千万町（ぜまんじょう）小学校 教頭 荻野 嘉美, 教諭 山本 恭子

E-mail zemanjo@school.town.nukata.aichi.jp

キーワード：ふるさと総合学習, 光ケーブル活用, ビデオコンテンツ, ホームページでの発信

1. ふるさとの山里の恵みと音楽の感動のホームページによる発信

千万町小学校は、愛知県三河山間部にある全校児童14名のへき地極小規模校である。昭和41年から始まった全校音楽の取り組みは、CBC こども音楽コンクールでの優秀賞を連続受賞し、中部地区決勝大会にも幾度か出場する実績を誇っている。こうした全校音楽の伝統とふるさと千万町の山里の恵みを活かしたふるさと総合学習を展開している。

①山里の恵まれた自然と人びとの生活の知恵を肌で感じる教育実践…豊かなふるさとの自然・社会・歴史・文化・人間という山里の恵みを体いっぱい感じるふるさと総合学習の展開 (A)、②伝統の全校音楽のいっそうの発展 (B)、③光ケーブル網の額田町町内基幹部への整備という有利な条件を活かして全校音楽の実践交流とふるさと総合学習の追究をビデオコンテンツやホームページとして作成・発信するという3つの柱立てで実践に取り組んでいる。

2. 実施対象学年

全校児童14名が対象である。ともえ学習（生活科・総合的な学習の時間）を軸に、社会・理科・音楽・道徳・特別活動・学校行事等の全教育活動を視野に入れて実施してきた。

3. ふるさと千万町の山里の恵みをいかした実践とその情報発信 (A)

① 全校児童14名という小さな学校の子どもが、地域にある千万町茅葺屋敷（築350年ほどの民家を再生した地域おこしの農林業宿泊体験施設）とまわりの棚田での農業や林業体験・郷土料理体験をすることにより、山里の恵みを肌で感じていった。またこの活動をホームページ上で発信していくこともできた。（全校児童エコクラブ活動）

② 森の恵みを感じる林業体験…水源の森を歩く、森林浴、植林と雑木林、森が水を生み出す、「森と川はつながり、森も川も生きている」、山仕事と山のくらし、間伐体験と間伐材での木の工作（椅子、机等の手作り工作）、ドラム缶炭焼き窯作りと炭焼き体験、山と海をつながり等を感じ考えてきた。（主として高学年）

③ ふるさとの探検をしてグリーンマップ（お気に入りお薦めのポイント）を作成し、全国グリーンマップジャパンのサイトに登録することで、世界発信をすることができた。（主として高学年）

4. 千万町小学校の伝統の全校音楽（器楽合奏）をひびかせ合う実践とその情報発信 (B)

① プロのマリンバ奏者・小林もゆるさんとの共演…全校14名の子の器楽合奏に小林もゆるさん（東京在住）にかかわっていただき、指導を受けたり、創立130周年記念式典で、来校していただき合同演奏をすることができた。

② 刈谷市立富士松南小学校、幸田町立南部中学校、幸田町立荻谷小学校等との交流等、愛知県野外教育センター（千万町に所在）を訪れる学校と音楽交流を深めることができた。

③ CBC こども音楽コンクールに出場し、同じ音楽を愛好する子どもたちと交流する。優秀賞を受賞する。

④ 愛・地球博の交流の一環として来日し幸田公演をするウクライナ・ハリコフ子どもバレエ団が、千万町小学校に來校する。茅葺屋敷と千万町小学校で、全校音楽と舞踊との国際交流を実施することができた。言葉の壁を乗り越えて、流しそうめんや川あそび（マスつかみと塩焼き）、音楽と舞踊の交流が広がった。

情報発信としては、①ホームページ作成の研修会（町情報教育アドバイザーの指導によるホームページ作成研修会）の実施、②全職員が自分の担当部分をホームページ化（ホームページの全面リニューアル）、③全校音楽の音源のみならずビデオ映像をDVD化し、簡易版をホームページ上で公開することができた。

<http://www.town.nukata.aichi.jp/school/zemanjo/index.html>



5. 成果と課題

○ ふるさとの山里の恵みを感じる「ふるさと総合学習」の実践も「全校音楽」の実践も、子どもと教職員の努力で豊かに展開することができた。こうした活動を通して、夢と感動を味わい、人間としての学ぶ力と生きる喜びを実感していくことができた。子どもの中に、自信と交流の喜びが育ってきている。（3. と4. の項目参照）

・もう一つの柱である実践のビデオコンテンツとホームページの作成・発信についても、一定の成果をあげているが、

① ホームページを持続的に作成更新していくための、効率的な技術と体制作り

② デジタルビデオコンテンツを作成していく体制づくりと活用のあり方等の課題もある。

さらに、実践での交流と併行して、情報分野でも交流を深めていくためにテレビ会議等の方向を求めている。